



第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー1

これからのチーム医療で 皆さんに期待すること

2017年9月16日(土)12:10～13:10 第1会場 福岡国際会議場 メインホール

座長

医療法人健清会 那珂記念クリニック
副院長

道口 佐多子 先生

演者

横浜市立大学 分子内分泌・糖尿病内科学教室
教授・診療科部長

寺内 康夫 先生

※本セミナーは整理券制です。

5月10日より学術集会ホームページにて事前登録も受け付け
致します。

詳しくは学術集会ホームページをご覧ください。

<http://www.jaden2017.umin.jp/>

これからのチーム医療で皆さんに期待すること

横浜市立大学 分子内分泌・糖尿病内科学教室
教授・診療科部長 寺内 康夫 先生

糖尿病の分野では、新たな治療薬の開発や臨床応用が日々進み、透析予防に代表される合併症予防や大血管障害への対策が重要です。そのために、関連各科医師とメディカルスタッフ間での診療科・職種を超えた連携、地域の実情に応じた適切な医療連携など、チーム医療をオーダーメイドに作り上げていく必要があります。

平成26年の国民健康・栄養調査によれば、20歳以上で糖尿病が強く疑われる人は男性で15.5%、女性で9.8%と報告されており、高齢になるほどその割合は増加します。糖尿病患者の高齢化は糖尿病以外の様々な疾患の合併や身体機能及び認知機能の低下など、治療上多くの問題を抱えています。また、長年培われた生活習慣の変更は難しく、独居での療養生活の支援体制など療養指導上様々なハードルがあります。

その一方で、糖尿病専門医の数は限られており、医師だけの力では患者一人ひとりへのきめ細やかな治療は限界があるのが現実です。そこでコメディカルスタッフが参加し療養指導の充実を図ることを目的に、2000年に、日本糖尿病教育・看護学会、日本糖尿病学会、日本病態栄養学会の3学会が母体となり日本糖尿病療養指導士認定機構が設立されました。設立から16年を経た2016年時点で約19,000名の日本糖尿病療養指導士（CDEJ）が活躍し、高度で良質な糖尿病治療の一翼を担っています。

今後さらに多様化する糖尿病治療における診療体制を確立するには、「チーム医療」が必要不可欠であり、社会全体の高齢化に伴う諸問題に取り組むため、地域全体で包括的な医療を構築する必要に迫られています。糖尿病患者やその予備群の増加は想定以上であり、糖尿病教育・看護に携わられる皆様の活躍の場が広がり、益々の活躍が期待されます。

自己検査用グルコース測定器

GLUCOCARD

PlusCare

グルコカード プラスケア

GT-1840

医療機器 承認番号 229AABZX00030000

分類 クラスIII (高度管理医療機器)

特定保守管理医療機器

変わらない簡単操作

見やすい画面表示を追求

音声で測定操作をアシスト



単回使用自動ランセット

naturalet
petit

ナチュラレット プチ

医療機器 認証番号 228AFBZX00013000

分類 クラスII (管理医療機器)

2ステップのかんたん操作

穿刺器具の先端が筒状になっているので、
穿刺がしやすい設計です。

